



2016年度 日中語学研修・文化交流活動報告

平成 28 年 6 月 島貫清司

この交流活動は今回で 10 回目となる。やはり体力や根気の衰えを感じる。今回で、この交流活動を終了したいと思っている。今後は、個人的に活動を継続したい。

1. 日中語学・文化交流行程

日	曜	午前	午後	夜
5/30	月	関空 13:10 発 (MU226 便)	上海経由 ハルピン 21:50 着	ハルピン泊
5/31	火	市内散策 中央大街 松花江 太陽島 など		ハルピン泊
6/1	水	市内見学 731 部隊跡見学 黒竜江大学学生と交流 (16 時～)		ハルピン泊
6/2	木	ハルピン 15:45 発 (MU24680 便)	北京 17:50 着	北京泊
6/3	金	昼食会 潘家园旧货市场、古玩店	北工大交流 (18 時～夕食会)	北京泊
6/4	土	市内散策 王府井 昼食会 他		北京泊
6/5	日	天津へ貸し切りマイクロバスで移動	昼食会 休憩	天津泊
6/6	月	市内見学 五大道 古文化街 海河遊覧船		天津泊
6/7	火	郊外散策 薊県 (黄崖関長城、清東陵)		天津泊
6/8	水	天津老年人大学訪問・交流 (夕食会)		天津泊
6/9	木	天津国際空港 12:30 発 (MU9132 便)	上海経由 関空 21:30 着	

宿泊場所 ハルピン市 龍門大厦 (旧ヤマトホテル新館)
 天津市 維也納国際酒店 (天津貴州路店)
 北京市 工大建国国際飯店

2. 日中語学・文化交流参加者

永井 俊雄 (85 歳) 郷丸 絹恵 (77 歳) 中西 幸男 (67 歳) 島貫 清司 (77 歳)
 峯川 邦子 (70 歳) 安本 敏子 (69 歳) 大川 正彦 (75 歳)

3. 交流をした中国の人々

(1) 天津老年人大学

日本語高級会話クラス：日本語日本人講師 岡 興三先生他日本語学科 17 名

(2) 友人： 董明 (天津職業大学卒業生)、 崔ご夫妻 (安本様の友人) 張霞照ご夫妻

(3) 北京工業大学：李ご夫妻他 大学教授 4 名、日本語学科 3 年生学生 8 名

(4) 黒竜江大学：日本語学科 2 年生学生 2 名

4. 諸経費明細 (概略、レート：1 元＝20 円で換算)

(1) ホテル代 (10 泊) 48,000 円
 (2) 航空券 (関空～ハルピン～北京～天津～関空) 46,400 円 (今回は全て中国東方航空を利用)
 (3) 海外旅行保険 9,570 円
 (4) 交通費 (国内) 7,100 円

(5) お土産代	11,700 円
(6) 現地交流費（交通費、食事代他）	28,000 円
合計	150,770 円

5. 日中語学・文化交流記

5月30日（月）曇り

8時40分 JR 茨木駅東口から関空リムジンバスにて関空へ9時55分着。

（途中、阪急茨木市駅にて中西氏、安本氏と合流）

関空にて他4名と合流、搭乗、出国手続きを終え13:10離陸した。14時40分上海浦東国際空港着、17時35分発のハルピン行きに乗り換える為空港にて待機。しかし、17時頃になって飛行機が故障の為出発が遅れるとのこと。航空会社より夕食の弁当の差し入れがあった。結局、1時間遅れの栄口空港経由で22時50分にハルピン空港に到着。税関、手荷物検査の後リムジンバスで31日1時半龍門ホテルに到着。



ハルピンについて

1896年ロシアが露清条約により東清鉄道（満州里～綏芬河）の鉄道敷設権を獲得する。1899年ロシアがハルビンの都市計画を策定、鉄道管理局を設けて鉄道工事を開始する。

1909年（明治42年）には日韓併合に奔走する初代総理大臣、伊藤博文がロシア統治時代のハルピン駅頭で朝鮮民族主義者の安重根の銃弾に倒れた。この暗殺事件後、日本は韓国の併合実行を急ぎ1910年8月22日に日韓併合条約に調印し以後終戦まで朝鮮総督府を日本が支配した。

1931年9月18日の柳条湖事変後1932年には日本軍がハルピンを武装占拠し、敗戦の1945年8月15日まで支配した。

5月31日（火）晴れ

7時半からホテルの食堂で朝食、9時ホテルを出てハルピン駅から中央大街（キタイスカヤ）へバスで出発。中央大街を散策した。



散策後、餃子専門店で昼食をとる。昼食後、永井氏の歩行が困難の為、小生と共にホテルに戻り休憩をする。他の5名は松花江、太陽島へ散策の為、出発した。夕食まで時間があるので、ハルピン駅周辺を散策した。10年前後前までは、大都市のどの駅でも内陸部からの出稼ぎ者でゴった

返していたが、ここ2、3年前から、そのような光景はあまり見られない。ハルピン駅前も整然と整理されており清潔感があった。駅周辺での建設工事が盛んに行われている。駅前の地下街に入ると、一般市民向けの日用品雑貨店、飲食店、散髪屋等がぎっしり店を構えていて大賑わいである。夕食は永井氏と2人でラーメンチェーン店「李先生」で済ませた。



中央大街（キタイスカヤ）について

キタイスカヤはロシア語で「中国人の街」を意味する。ロシアは鉄道建設の為に中国人労働者をここに集めた。後に欧米や日本の商店や銀行、ロシア正教の教会（聖ソフィア大聖堂）等が建ち並んで中国東北最大の商業地になった。道幅宅21m、長さ約1.5km、今でも当時流行したアールヌーボ様式の建築物が多く残っている。嘗ては、通りの裏側は歓楽街でキャバレー、花街、遊郭、等が軒を並べて賑わったが、今はハルピン随一のショッピング街となっている。ロシア料理やハルピン名物の水餃

子の店も沢山ある。ハルピンビールほどの料理にも合う。

6月1日（水）晴れ

9時にホテルを出て、「侵華日軍第七三一部隊遺跡」見学にバスで向かう。10時頃現地着、入場時は火器（ライター含む）、ペットボトルは持ち込み禁止である。展示場を見た後、場内遺跡見学カート（説明員付き）に乗り一巡する。展示物については、目をそむけたくなるものも多く有っ



たが、よくぞここまで来て細菌実験をしたものだと感心すら覚えた。場内は、関東軍が撤退する時に全ての施設を破壊した為、建物・施設は殆ど残っていない。場内には鉄道が敷設されていて、重要な研究成果や実験器具を搬出した。

七三一部隊遺跡見学の後、黒竜江大学日本語学科の学生と交流する為バスで大学に向かった。大学構内の喫茶店で軽く遅めの昼食をした。16時から二人の女子学生と大学近くの串焼き専門店で夕食をしながら交流をした。この内の1名は、今年9月から新潟大学に1年間留学をするとのこと。

全員がホテルへ帰ってから、皆でホテル近くの果物屋で西瓜、サクランボ、まくわ瓜、桃を買いこみ、又にくまん、ビールも買い込み私の部屋に集まりハルピン滞在最後のパーティをした。



七三一部隊について

731部隊（ななさんいちぶたい）は、第二次世界大戦期の大日本帝国陸軍に存在した研究機関のひとつ。正式名称は関東軍防疫給水部本部で、731部隊の名は、その秘匿名称（通称号）である満州第七三一部隊の略。初代部隊長の石井四郎（陸軍軍医中将）にちなんで石井部隊とも呼ばれる。軍隊において防疫や給水は戦力の発揮のために重要な要素である。そのため日本陸軍も、陸軍軍医学校防疫部を置いて研究を行っていた。1932年（昭和7年）8月に軍医学校防疫部の下に石井四郎ら軍医5人が属する防疫研究室（別名「三研」）が開設された。翌1933年（昭和8年）秋からハルビン東南70kmの背陰河において研究が開始された。部隊規模の拡張に應じるため、平房（ハルビン南方24km）に新施設が着工され、1940年に完成した。1940年（昭和15年）7月、軍令陸甲第14号により、関東軍防疫部は「関東軍防疫給水部（通称号：満州第659部隊）」に改編された。そのうちの本部が「関東軍防衛給水部本部（通称号：満州第731部隊）」である。1945年（昭和20年）8月、ソ連対日参戦により、731部隊など関東軍防疫給水部諸部隊は速やかに日本本土方面への撤退が図られた。部隊関係者の多くは8月15日までに撤収したが、一部は侵攻してきたソ連軍の捕虜となり、ハバロフスク裁判で戦争犯罪人として訴追された。731部隊では、生物兵器の開発や治療法の研究などの目的で、本人の同意に基づかない不当な人体実験も行われていた。人体実験の被験者とされたのは主に捕虜やスパイ容疑者として拘束された朝鮮人、中国人、モンゴル人、アメリカ人、ソ連人等で、「マルタ（丸太）」の隠語で呼称されていた。マルタの中には、一般市民、女性（中国人女性やソ連人女性など）や、子供（モンゴル人少年やソ連人少女など）が多数含まれていただけでなく、731部隊の少年隊員も人体実験の犠牲になった。これは、731部隊が性別、年齢層、人種を超えた、幅広い実験データを必要としたためであると考えられるが、女性マルタは主に性病治療実験の材料になったという。731部隊における人体実験の主目的は伝染病の研究であると同時に対人用生物兵器の開発であった。マルタにはペスト、コレラ、チフス、赤痢、梅毒スピロ

ヘータなどの生菌を注射する細菌学的な人体実験が頻繁に行われた。通常、人体実験とは生体解剖を意味し、マルタは生きたまま解剖された。これは、被験者が死亡してしまうと人体に雑菌が入るため、マルタが瀕死の重症で、人体に雑菌が入らないうちに解剖して臓器などを取り出す必要があったからである。731部隊では、凍傷実験、ガス壊疽実験、銃弾実験などのように、人体を極限まで破壊すると、人体はどのくらいの期間持ちこたえることができるのか、あるいはそこからどのように治療すれば回復させることができるのか、といった生理学的な研究も頻繁に行われた。731部隊では、単なる生物兵器に留まらず、ペスト菌や炭疽菌を砲弾や爆弾に詰め、大砲や飛行機で都市に散布するための研究が行われた。731部隊は、細菌爆弾や砲弾の改良や性能を調べるための屋外実験場を安達に持っていた。731部隊では、性病実験も頻繁に行われた。戦時中の性病治療法は極めて限られており、主な方法は注射しかなかったが、性病の蔓延は陸軍内部で深刻なほど拡大していた。例えばシベリアでは多くの日本兵が現地のロシア人女性を強姦したために性病が蔓延し、1個師団相当の兵力が失われたとされ、軍紀が乱れる大きな原因となった。司令部は、731部隊がこの問題を解決するよう期待したのである。当初、731部隊では注射で女性マルタに梅毒を感染させていたが、現実に即した実験結果が得られなかったため、マルタを強制して性行為を行わせることで梅毒を感染させ、梅毒にかかった男女を小部屋に入れて再び性行為を強制した。性病に感染すると、その経過を丹念に観察して、1週間後、3週間後、1ヶ月後における病気の進行状態を確認した。研究者は性器の状態など外部的兆候を観察するだけでなく、生体実験を行って様々な内部器官の病気がどの段階に達しているかを検査した。1945年8月8日のソ連参戦に伴い、731部隊は他の日本軍に先立ち、9日からすぐに撤退を開始した。撤退における最優先事項は、人体実験の証拠を隠滅することであった。そのためにはまず、終戦時に本館の監獄に収容されていた40人前後のマルタを残らず殺害する必要があった。マルタの殺害方法については「青酸カリによる毒殺」、「銃殺」など諸説あるが、マルタの多くは毒ガスによって殺害されたとする説が有力である。マルタの集団殺戮を目撃したという元隊員は、その時の様子を次のように証言している。終戦による731部隊の解体は、決して731部隊そのものの消滅を意味するものではなかった。731部隊の実験データの多くは元隊員たちが密かに持ち帰り、最終的にはアメリカ軍の戦後の生物兵器開発に生かされることになった。しかも、人体実験に手を染めた医学者、軍医たちは誰一人としてアメリカやイギリス、ソ連や中華民国を中心とした連合軍から戦犯として裁かれることなく、大学医学部や国立研究所や各地の病院に職を得た。開業した者や、製薬会社（のちの「ミドリ十字」）を設立した者もあり、その多くは戦後も日本の医学界の重鎮として君臨し続けることになる。

6月2日（木）曇りのち晴れ

朝食後、皆で中国銀行へ両替に行った。各人が両替をすると時間がかかるので3人と4人に分け安本氏と峯川氏が両替を行った。ちなみに私は40,000円両替し2,620元であった。（5月23日に日本で50,000円を両替した時は2,700元）その後バスにてハルビン空港へ12時前に到着。15時



半搭乗までの時間があるので、空港内のレストランでゆっくりと昼食をとった。15時55分ハルビン空港を発ち18時前に北京空港に到着。空港出口では、北京工業大学の韓曉明女史が出迎えてくれた。18時30分専用マイクロバスで（500元）北京工業大学内に



ある「建国国際飯店」へ、19時20分着。チェックインを済ませて、学生食堂で夕食をとる。

6月3日（金）曇りのち晴れ

7時30分ホテルの食堂で朝食後、付近を散歩する。11時40分から韓曉明女史ご夫妻と大学関係者を交えて昼食会。偶然にも驚いた事は、大学関係者の中に以前（アジア図書館の中国語講座？）で、中西氏が中国語を習っていた「馬華先生」が居られた事であった。



17時50分から、学内レストランにて日本語学科3年生8名と夕食交流会を開催した。中には日本の東京大学や一橋大学を目指している学生がいた。現在、北京工業大学では、国際教育学院の改革計画が有り、日本語学科の学生をここ2年募集していない。いずれ又、日本語学科を開設するとのこと。



6月4日（土）曇りのち晴れ

朝食後全員で王府井へ散策に行く。現地で安本氏の友人「崔ご夫妻」と待ち合わせて合流し、レストランで昼食を頂く。（崔女史は、北京林業大学国際文化学院日本語学科の先生をされている。）その後2班に分かれて王府井を更に散策しホテルに戻る。ホテルに戻り大学内を散策してベンチで休憩しようとしたら、先に座っていた中国人青年が急いで「どうぞここに座って下さい」と新聞紙をベンチに敷いてくれた。私は感激し、お礼を言ってしばし会話を交わした。彼は当日、ホテルで建設関係の会議が有り参加していたとのこと。日本が好きで是非日本へ行きたいが機会が無く、どうしたら行けるかを熱心に聞いてきた。色々方法を教えお互いの連絡先を交わして分かれた。夕食は、ホテル近くのレストラン「老北京」で取る。



6月5日（日）晴れ



朝食、チェックアウトを済ませ、9時30分、天津から迎えに来た専用マイクロバスにて（1100元）出発。天津からは、金曉雲女史と張霞照女史が来てくれた。12時30分天津の「維也納国際酒店」へ到着。チェックイン後、金曉雲女史と張霞照女史と共に近くのレストランにて昼食をとる。夕食は「台湾齊館」にて台湾料理を食す。



6月6日（月）晴れ

朝食後、タクシーにて五大道めぐりの出発点に到着後、遊覧馬車に乗り見学をする。鼓楼、古文化街を散策。大川氏が太極拳の衣装を買う為に色々店を覗いたが、なかなか見つからなかった。昼食はケンタッキーにて取る。その後、古文化街ふ頭より遊覧船にて観光する。遊覧船は、天津の中心を流れる海河（川の名前）を川下へ下り再び古文化街ふ頭を通過して川上に上り古文化街ふ頭に戻る約1時間半の遊覧である。遊覧船からみる高層建築が立ち並ぶ天津市街は又格別である。帰りは地下鉄でホテルへ。夕食はホテル近くのカレー専門店を取る。



五大道について

天津市和平区馬場道にある五大道は 1860 年の天津条約によって誕生した、天津英租界にある英国式の住宅街で、9ヶ国の天津租界の中で最も繁栄した天津英租界にある五大道には 1800 年代から 1900 年代前半の英国式の建築物と住宅街の街並みが残っている。現在五大道付近は、天津市の高級住宅街となっており有名人たちも多く住んでいる。五大道は天津の中心に位置しており、公式な名前ではなく通称名である。東側、西側には中国の南西名城——成都、重慶、常德、大理、睦南及び馬場と名づけられた五本の街道があるため、天津人が五大道と呼んでいる。この地域の一番の特徴は、異なる欧風の建物が並んでいること。英、フランス、イタリア、ドイツ、スペインなどの国の独特な建物が 230 棟あり、有名人の家 50 棟余り集まっているので、万国建築博覧会場にもなったことがある。ここでは、西洋風の別荘様式の建物が 300 カ所もあり、そのうちの 100 カ所以上は歴史に名を残す知名人の旧居である。

五大道地域には三つの特徴がある。一つは、一戸建ての住宅が多く、横道が少ない上に、有名人の家が番地で区別され、改名されることなく、標識もないこと。一つは道が全部「里」と通称され、「胡同（路地）」が無い。もう一つには、「大楼」、「別荘」、「村」、「坊」などのアパートの表示がされている。例として香港大楼、馬場別荘、劍橋大楼、安樂村、育分坊など。

6月7日（火）曇りのち晴れ

朝 6 時ホテル発、専用マイクロバスにて（1700 元）薊県の「黄崖関長城、清東陵」へ向かう。



朝食は、ホテルが軽食弁当を用意してくれた。8 時 30 分、黄崖関長城に到着。10 時 30 分黄崖関長城出発、12 時清東陵に到着。途中、高速道路のサービスエリアでトイレ休憩をしたが、トイレ設備は昔に比べて頗る良くなっている。トイレにはこんな掲示がされていた「向前一小歩、



文明一大歩」。清東陵には過去 2 度来た事があるが、その時はもっと素朴な風景やのどかな雰囲気であったが、今回は観光面で大変力を入れ、入



口から陵迄の間の道路が整備され陵内バスが走り、博物館、レストラン等数多くの施設が開設されていた。領内の観光料金も結構高い。15 時天津に向け出発。18 時 20 分ホテル着。今日の散策ルートは欲張りすぎて、いささか疲れた。夕食はホテル近くのレストラン「東方珠」にて取る。

黄崖関長城について

天津市薊县城から北へ 30 キロにある長城。北方からの侵入を防ぐのに適した非常に険峻な地形が利用されている。北齊から隋代（紀元 577 年～581 年）に創建されたもので、東は河北省遵化県の馬蘭峪長城、西は北京平谷県の將軍関長城へとそれぞれつながっている。この崖を夕陽が照らすと幾筋もの黄金色の光が反射して見えることから、黄崖関という名になったといわれる。

清東陵について

中国の河北省遵化市にある清朝の歴代皇帝や皇后たちの陵墓群。

清朝の入関後最初の皇帝となった順治帝の孝陵を中心に、康熙帝の景陵、乾隆帝の裕陵、咸豊帝の定陵、同治帝の恵陵など 5 人の皇帝の陵墓がある他、孝荘文皇后の昭西陵、東太后の普祥峪定東陵、

西太后の普陀峪定東陵などの皇后陵や側室のための妃園寝などがある。河北省易県の清西陵とともに清朝皇帝の溥大規模陵墓が造営された。1928年に国民党の軍閥孫殿英の軍隊によって略奪されるという東陵事件が起きる。中でも乾隆帝の裕陵と西太后の定東陵は、墓室を暴かれ徹底的な破壊と略奪を受けた。溥儀は国民政府に強く抗議したが、孫殿英は政府高官に賄賂を送ったために何ら処罰されることはなく、溥儀を大いに憤慨させた。東陵事件は溥儀の対日接近の契機になった。1961年に中華人民共和国の全国重点文物保护单位に指定。2000年にユネスコの世界遺産に登録された。

清朝系図 (愛新覺羅氏)

太祖 (ヌルハチ 1616～26) — 太宗 (1626～43) — 世祖 (順治帝 1643～61) — 聖祖 (康熙帝 1661～17) — 世宗 (雍正帝 1722～35) — 高宗 (乾隆帝 1735～95) — 仁宗 (嘉慶帝 1796～1820) — 宣宗 (道光帝 1820～50) — 文宗 (咸豐帝 1850～61) — 穆宗 (同治帝 1861～74) — 徳宗 (光緒帝 1874～1908) — 宣統帝 (溥儀 1908～12 満州国皇帝 1967 年死)

6月8日 (水) 晴れ

11時50分集合しホテル近くの「李先生」で昼食後、タクシー2台にて天津老人大学へ向かう。13時30分老人大学着、14時10分から16時まで交流会。交流会では、最初に自己紹介をし、日本の歌「さくら さくら」を歌い、その意味を解説した。その後3班に分かれてフリートーキングをし、あっという間に2時間が経過した。17時から20時迄、老人大学近くのレストランで夕食交流会を開催。夕食交流会では、日本の歌を皆で合唱したり、女性たちがフラダンスを披露したり、大いに盛り上がった。



嬉しかったのは、老人大学で5年前に知り合った劉錫武氏から私に書画を2幅プレゼントしてくれたことである。



老人大学でのアンケート結果 (17名回答)

1. 日本に行った事があるか? ある: 12名、ない: 5名
2. 日本は好きですか? 大好き: 13名、好き: 4名
3. 日本の好きな事は何ですか? 食べ物(すし、酒)、日本文化や経済状況、正直なところ、街がきれい、空気がきれい、人情深い、質素、教養が高い、映画、小説
中国四川省地震で、日本の救援隊が来てくれた事に感動とお礼を言いたい。
4. 日本の嫌いな事は何ですか? 商品が高い(特に野菜)、地震が多い。
5. 日本のことで知りたい事は何ですか? 医療制度、中国観(中国人への印象)、定年後の生活状況(生活費や年金制度等)

6月9日(木) 晴れ

今日は中国では旧暦の「端午の節句」、中学、高校の一斉入学試験日。朝食後9時5分、専用マイクロバスで(300円)天津空港へ9時40分着。12時30分天津空港から上海紅橋空港へ14時着。14時50分バスにて浦東国際空港へ。18時55分関空へ出発、22時関空着、22時40分リムジンバスでJR茨木駅へ。10日0時40分無事帰宅。



6. 今回、特に感じた事、聞いた事

- (1) 学卒初任月給は平均5,000円、学生アルバイトは1時間平均10円、家庭教師は1時間50円
- (2) 大学選定については、成績順で先生が大学を決める。
- (3) 中国の国内航空線は、搭乗口や出発時間を変更する事が多い。その情報をよく掴む必要がある。
- (4) 北京の地下鉄1号線には、エレベーターもエスカレーターも無い。身障者は困る。
- (5) 見学施設の入場料は、70歳以上であればパスポートを提示すると無料である。
- (6) やはり路上駐車が多い。

7. これまでの交流内容 (2004年~2016年)

交流時期	交流先(参加者数) 学生、先生、一般人含む	参加者数	主な交流内容	諸掛経費
2004年 8/17~8/29	天津職業大学(18) 北京工業大学(4) 北京吉利大学(13) 35	6	★各大学の学生と、ホテルの個室を借り切り、グループ分けをして交流した ★新聞折り込み広告を配布しフリートークキング	138,000円 往復飛行機 (一人当たり、 以下同じ)
2007年 4/13~4/22	天津職業大学(22) 北京工業大学(11) 天津理工大学(38) 71	11	★手巻きすし、稲荷寿司の実演 ★コーラス(日本と中国の歌) ★楽器演奏(オカリナ、葦笛)	116,000円 往: 船、 復: 飛行機
2008年 4/18~4/30	天津職業大学(41) 41	7	★腹話術 ★マジック ★日本語朗読 ★絵手紙 ★折り紙とおもちゃ作り	89,000円 往: 船、 復: 飛行機 宿: 大学宿舎

2009年 4/17~4/30	天津職業大学 (27) 天津理工大学 (29) 北京工業大学 (18) 天津視覚障害者 日本語学校 (6) 80	7	★ビンゴゲーム ★日本の文化紹介 (祭り、正月) ★日本の企業文化とビジネスマナーについて ★日本企業への就職活動についての注意事項	140,000 円 往復: 船、 復: 飛行機
2010年 4/16~4/28	天津職業大学 (47) 天津師範大学 (33) 80	10	★阪神大震災、東北大震災報告説明 (アサヒグラフによる) ★ナンプレ (数独)	67,000 円 往復: 船、 宿: 大学宿舎
2011年 4/15~4/24	天津中医薬大学 (24) 天津職業大学 (43) 天津老年人大学 (18) 天津海濱職業学院 (9) 94	4	★クロスワードパズル ★銭太鼓実演 ★盆踊り実演 ★日本のボランティア活動の現状 ★和服の着付け実演	119,000 円 往復: 船、 復: 飛行機
2012年 4/17~4/30	天津泰達国際養老院 (22) 天津老年人大学 (45) 東方婦女老年大学 (33) 天津師範大学 (63) 天津職業大学 (47) 天津中医薬大学 (21) 231	11	★フラダンス実演 ★各新聞社の朝刊 ★日本の学生の起業状況 ★日本の技術移転について <u>過去贈呈品</u> ●いま蘇る 日本の歴史前 10 巻 DVD	98,000 円 往復: 船
2014年 5/26~6/2	北京工業大学 (18) 天津中医薬大学 (16) 天津老年人大学 (21) 55	3	●現代用語の基礎 (2009年版) ●にほんのうた (由紀さおり、安田祥子) 2巻 CD ●日本地図 (今がわかる 時代がわかる (2010, 2012))	140,000 円 往復: 飛行機
2015年 5/26~6/2	天津中医薬大学 (14) 天津老年人大学 (18) 32	4	●なるほど知図帳 (2014) ●お土産は、資生堂洗顔化粧品、健康サプリ (小林製薬の納豆キナーゼビタミン剤など)、タバコ、板チョコ、脂取り紙、リップクリーム、ふりかけ各種、あさげ各種、拡大鏡付き爪切り	135,000 円 往復: 飛行機
2016年 5/30~6/9	黒竜江大学 (2) 北京工業大学 (8) 天津老年人大学 (18) 28	7		151,000 円 往復: 飛行機
合計	747	70		1,193,000 円

8. 何故 日中交流か (この活動をしようと思った動機)

中国語語学留学や現地訪問では、沢山の中国人の方々にお世話になった。特に天津師範大学留学では、韓国、ロシア、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど世界各国から来ている 20 歳前後の若者に交じって、中国語学習以外にさまざまな異文化を学び体験し多くの友人知人が出来た。

帰国後、中国語のレベルを保つために高槻市内の中国語教室や同好会に参加したり、京都外国語大

学中国語学科の聴講生として1年間中国語の奥にある中国の文化・歴史を学んだ。又、大阪府主催の「シルバーアドバイザー養成講座国際専攻コースにて国際交流活動についての知識や手法についても1年間学んだ。

その後国内での国際交流活動の実践として、高槻市在住の外国人へのサポートボランティアを始めた。国外での国際交流・国際協力の実践として、2005年から毎年1回2週間程度中国天津師範大学、天津職業大学、天津理工大学、北京工業大学などで日本語を勉強している学生を対象に語学や文化の交流を実施した。これらは中国での留学当時に知り合った方々のお陰で上手く実施出来ている。

以下に「いま何故日中交流か？」について7項目述べる。

- (1). 同じ漢字圏の者として、また日本に一番近い隣国として、心を通わせる事の出来る異国に親しみを覚える。
- (2). 若者との交流で若さとそのエネルギーをもらえ、生きがいに繋がる。
- (3). 素朴で真面目で、未来を信じ未来に生きようとする若者の態度に惹かれる。
- (4). 1950年から1960年代の自分の青春時代(学生時代)と重なる場面に出会える。
- (5). 大きな大地とおおらかな人間味に触れ、心が癒される。
- (6). 交流の度に、新しい発見と新しい好奇心や探究心が生まれ、生涯学習として楽しい。
- (7). 過去から受けた中国文明の伝来や、過去に与えた戦争侵略の傷に対し、この交流を通じて少しでも恩返しと償いが出来ればと思っている。(この項目については、各大学で日本語を学んでいる大学生との交流会時には、必ず最初の挨拶として伝えている。)

9. これまでの語学留学、現地訪問内訳

留学・訪問時期	留学・訪問先	内 容	諸掛経費
2000年 9/9~9/16	上海とその周辺	主に旅行、どれ位言葉が通じるか	89,000円
2001年 4/27~5/30	天津師範大学	一カ月間の中国語レッスン留学(マンツーマン)	128,000円
2002年 2/22~7/24	天津師範大学	中国語研修留学(上海、威海、青島等に旅行)	433,000円
2003年 1/27~2/12	天津市	中国の正月の過ごし方体験(上海、フフホトを回る)	86,000円
2006年 9/9~9/22	新疆ウイグル地区	シルクロードの旅(ウルムチ、トルファン、カシュガル、パミール、ヤルカンド、ホータン、タクラマカン、クッチャ、コルラ他) 25日間	378,000円
2007年 10/29~10/31	天津市	ローム(株)天津工場の現地採用活動(天津師範大学、天津職業大学、天津外国語大学)に同行	45,000円
合計			1,159,000円

以上